

日吉台地下壕保存の会

会 報

第26号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

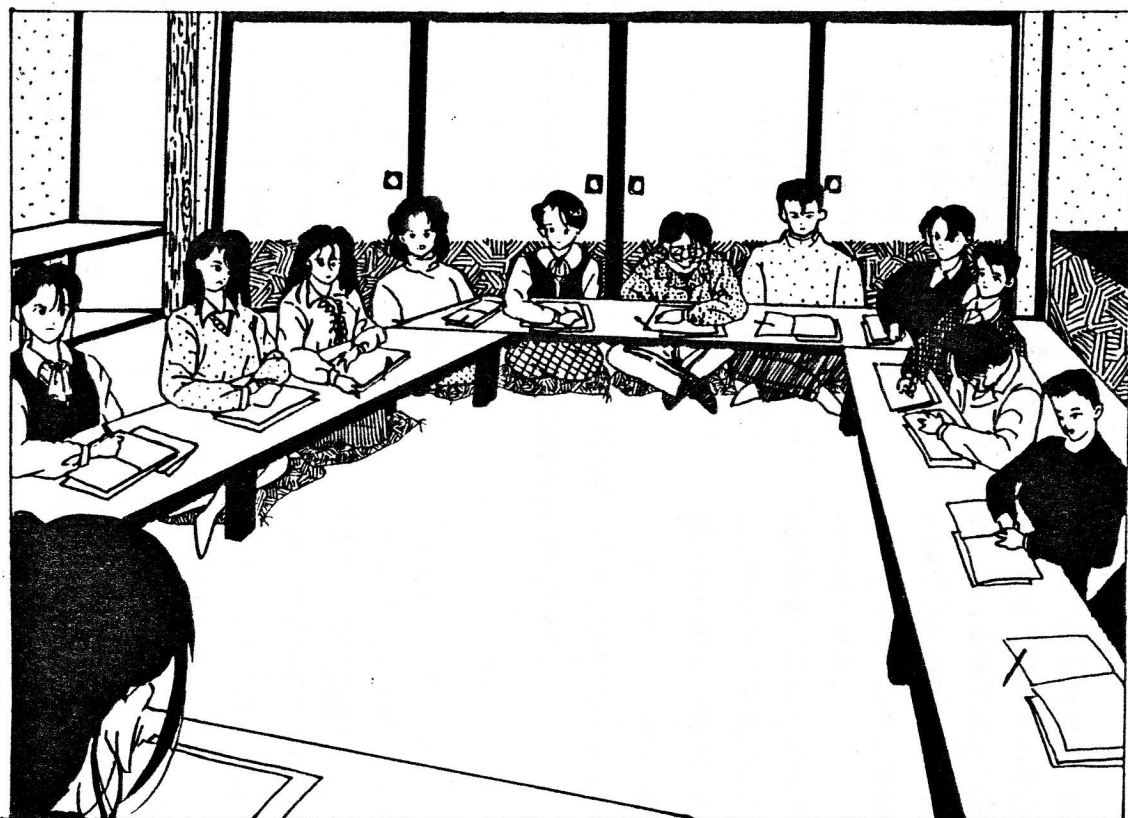
223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込(口座番号)横浜 5-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会



第2回平和のための戦争展実行委員会風景

岡上そう面

目 次	ページ		
今年の目標	2	連載日吉台地下壕	
「平和のための戦争展」を		当時の関係者の思い出話	6
成功させましょう	2、3	幹事会報告	7、8
港北区民会議からの報告	3	お知らせ	8
日吉台地下壕見学会			
～平和について考えよう～	4、5		

△ 年 の 目 標

会長 鮫島 重俊

地下壕の会もそれなりに大きくなり、それなりに有意義な活動をしている。

だが、現状のままでよいのか。情性的に動いているのではないかという疑問は残る。

一年の始めに当っては、会の重点目標というものがある筈である。私たちは、共通の目標をもっているのだろうか。再検討してみる必要はないのだろうか。

保存という共通の目標は現在までどれだけ達成できたのだろうか、という問は、常に発し続けなくてはならないだろう。そうでなくては会を維持し続ける理由がないからだ。今年は、とさて考えてみる。ことしは何をしなければならぬのか、地下壕保存のため

には何が出来たのか。

私として出来ることは、塾

当局との正式な接触の場を作ることである。

昨年夏から、二回にわたつ

て、塾理事会と非公式な話し合いをした。その結果、かな

「平和のための戦争展」を

成功させよう

代表 渡辺 賢二

今から五〇年前のことを考えてみましょう。太平洋戦争が敗色濃くなる中でこの年は始まりました。マリアナ諸島

を占領した米軍は、そこから本土空襲するようになりました。学童疎開が開始されたのもこの年です。主力艦船を失った海軍連合艦隊は、日吉台

り良好な感觸は得た。然し、「行政当局」としてのむこうの壁もかなり大きいらしいという認識も得た。

今年は、非公式を公式の水準まであげなければならない。

それが、私の目標だ。

それから話し合いが始まる。時間はかかってそこから築

地下壕を掘り移転してきました。陸軍では決戦兵器として風船爆弾が打ち上げられた年でもあります。

それから五〇年。日吉台下壕の上では慶応大学の学生が、登戸研究所跡地では明治大学の学生がそれぞれのんびりとした雰囲気の中で勉強し

いて行かなければならない。

事務局長のこれまでの努力が、現実の果実となるかどうかは、これからの折衝次第である。しかも世論を背景にした折衝次第である。

さて、皆さんは、今年はどうすべきだとお考えになりますか。

ています。平和な社会のすばらしさを、五〇年前と比較してみる時、実感できるものと思います。

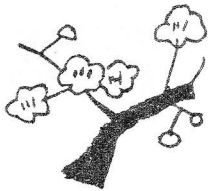
私たちは、平和のすばらしさを確認するために、戦争の実相をしっかりみつめたいと思います。そこで二月九日から一三日まで、戦時中、国民精神文化研究所のおかれていた大倉山記念館で、「平和のための戦争展」を開くことにしました。梅の開花と重なる

ことを期待しつつ、二回目となる今年のとおりくみ内容の特徴を紹介したいと思います。

第一の特徴としては、今までの調査で明らかにされてきた連合艦隊司令部など海軍の中枢機構が移転した日吉台の姿と生田地域におかれた陸軍登戸研究所の存在をビジュア



の研究所の
ト研究説明
ベ登生
イ軍先
プレ陸学
旧見渡



ルに展示するとりくみとして進められていることです。写真家の小池汪さんに全面的な協力をうけ、芸術性高い展示になるものと考えています。

第二には、中高校生が独自の実行委員会をつくって、それぞれの調査研究の交流と討論が予定されていることです。

第三には、シンポジウムや講演会を充実したものにするとりくみが進んでいることです。一二日には登戸研究所に勤めた体験のある和田さん、中国で強制連行した体験のある小島さん、連合艦隊司令部で働いた体験のある足立さんから話を聞くこととしていま

す。一三日には松代大本営について調査研究している大日方さんの講演を軸に寺田、渡辺が日吉台地下壕と登戸研究所についてそれぞれ報告します。

この戦争展は、横浜市と横浜市教育委員会から後援をうけることができました。

戦争展の成功にむけて、是非皆様方の絶大なる御協力と御支援をお願いする次第です。

港北区区民会議

からの報生口

橋本 ミチ子

第10期港北区区民会議に日吉台地下壕保存の会から4名の幹事が参加しています。寺田さんは推薦されて運営委員になりました。

区民会議では区民の意見を行政へ反映させるために、さまざまな人が意見を交換し、

分科会を設けて問題点を掘り下げ、行政に提言していくなどの活動をしています。

これまでは「ゴミと環境」「高齢化と福祉」に関する要求が強く主張されていたようです。文化に関する視点で、街づくりを考える意見の交換はあまりなかったようです。

地下壕保存の会では歴史と文化の視点から、保存運動に対し多くの区民の理解と賛同を得、行政に提言していくため、市の長期ビジョンにある「歴史と文化を生かした街づくり」を分科会のテーマとして提案しました。その結果、子どもの問題も含めて「やさしき地域づくり」のテーマで分科会が設けられ、世話人として寺田さんが選ばれました。平成6年8月までに月1回の会合を開き、提言をまとめていく予定です。

1993年7月5日

地球にやさしい人にやさしい

No.223号 (9)

地下壕見学会

について考えよう～

生協学生委員会
主催

もって戦争を実行しようとした軍部はとんでもないと思った。」など、当時の戦争のあり方に疑問を投げかけたものもありました。

また、地下壕の保存についてどう考えるかという質問では、ほぼ全員が地下壕は残すべきだと答えました。その主な理由は、「地下壕を残して戦争の愚かさを後世の人に伝えるべきであるから、そのために地下壕は必要だから。」「戦争は子孫に絶対伝えていかねばならないことだと思うので、当時の状況などをリアルに実感できる地



下壕はとっておくべきである。」という地下壕を戦争を省みる場として必要であるというものと、「これだけ大規模な施設は他にないと思われるから。」「貴重な歴史的資料であるから。」など、史的価値の高さから保存を考えているものがありました。しかし、両者とも言っていることは同じであると思われます。

また感想に、「泥がすごかった。」「泥対策をすべきだった。」というように泥に対する感想も多かったです。寺田先生のお話によると、こ

の泥は米軍が進駐してきたとき、入口を塞ぐため爆破したので入り込んだものだそうです。やはり前述したように長靴は必須であるということをも含

めサンダル履きの参加者は痛感させられました。くどいようだが長靴は必須のようです。

参加者の中には興味本位から参加した人もいたと思われますが、見学後の感想やアンケートを見るに多少なりとも平和について考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。そういう点でこの企画は成功だったといえます。

最後になりましたが今回ご協力を頂きました皆様、どうもありがとうございました。また参加者の皆さんご苦労様でした。

愛知義塾生協 News vol.223
をもとに再編集しました。

特集

日吉台地

～平和～

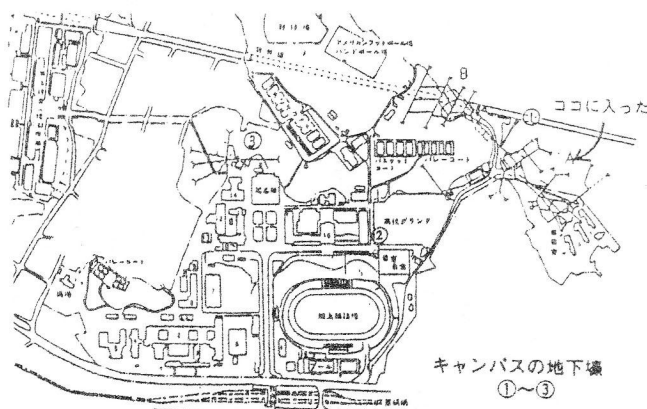
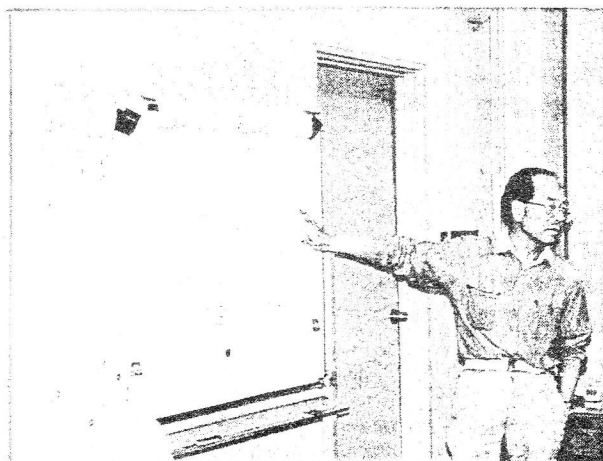
去る6月12日(土)、生協学生委員会主催の地下壕見学会が開催され、28名の参加がありました。

ところで皆さんは日吉に地下壕があることをご存じでしょうか。(略)

さて、今回の地下壕見学会では、まず塾高の寺田先生による地下壕や当時の日吉の状況、地下壕が作られた背景などの丁寧な説明を聞いた後、実際に地下壕へ入りました。内部は指令部があっただけの事はあって、コンクリートで固めてあり、また予想外に涼しく快適でした。奥へ進むと当時使われていたトイレや司令を送っていた部屋、水道の跡、さらには鍾乳石まであって50年という時の流れを感じさせました。その場その場で寺田先生の説明を

受けながら地下壕を見学してまわりました。ただ奥の方では、泥が非常に多く足をとられて歩くのが困難なところもありました。やはり長靴と懐中電灯は必須です。約1時間で見学は終了し、アンケートを参加者の皆さんに書いてもらい、一人一言ずつ感想を述べあって解散となりました。

参加者の感想では、「戦争の指令部として使われていた様子が目に浮かんだ。」、「コンクリート壁は予想よりずっと保存状態が良かった。」、「便器や発電機のボルトなどが生々しかった。」、「想像していたよりも広がった。」、「いつも何気なく来るとこ



ろに、こんな物があったとは驚いた。」、「次元のちがう空間にいるようだった。」、「タイムスリップしたような感じがした。昔あんなところで軍議が行われていたなんて意外だった。」など、地下壕そのものに対する感想から、「ああいうところにまでこ

連載

日土ロムロ地下壕 当時の関係者の 思い出話話 3

日吉移転前後 3

日吉に最初に移転してきた
軍令部第三部（情報部）の動
きを実松氏に伺います。

実松 讓氏の話

（ききて・寺田貞治）

駐米大使館海軍武官補佐官
（中尉、後に大佐）であった
私は、昭和一七年八月大使館
員の交換船で帰国して、第三
部第五課に配属された。第三
部の陣容は全く貧弱で、僅か
一九名であった。米国を担当
する第五課は、たった四名で
あった。

戦局の進展とともに、第五
課の対米情報作業対象地域が
広がり、増員の必要性が高ま

ってきた。にもかかわらず人
事当局は、中堅士官の不足を
理由に第一部（作戦部）など
には増員しても、情報部は増
員してもらえなかった。

それでも、大学出の予備士
官ならいると言うことで、一
八年五月ごろ、第五課に三名
の主計大尉が配属された。そ
の後も三名、九名と増員され、
一九年初めには一応対米情報
作業に必要な基礎要員が確保
された。

関の海軍省の庁舎では、増員
された人達を収容することが
できないので、どこかに移転
しなければという話が出てき
た。

また、サイパン島から日本
までの飛行能力のあるB29が、
日本を空襲することが現実に
なった時、霞ヶ関に呑気にい
ていいのが問題になった。

そこで、移転の候補地とし
て挙がって来たのが、日吉の
慶応の校舎であった。

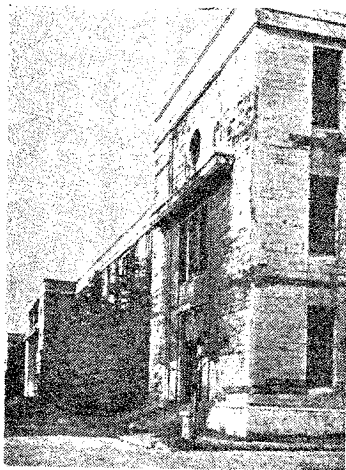
霞ヶ関から日吉までは自動
車で一時間ほどかかる。「日
吉じゃ遠いな。

情報部にそば
にいてもらわ
ねば困るよ」

と作戦部の連
中が言うのを
期待した私は

見事に裏切ら
れてしまった。

頃 4年 昭和 昭
年 2 義 慶
頃 義 慶
年 2 義 慶
頃 義 慶



日吉移転当初の高等学校

「作戦部にとって、情報部は
あってもなくてもいい存在な
のか」と言う感を深くしたの
は、私の癖みというものであ
らうか。「作戦を腰だめ

（大体の見当で物事をするこ
と）でやっていたのではない
か」と言う思いがある。

陸軍はもっとひどく、情報
を操作したり、捏造したりし
ていた。ある時、陸軍の情報
があまりにおかしいので、そ
の出どころをただし、問い詰
めたところ、「東条から『米
国の情報を作れ』と命令され
てやむなく捏造した」と白状
したことがあった。

第二次大戦も、ドイツの電
撃的勝利に目がくらみ、ドイ
ツが勝つことを信じて「ヒッ
トラーのバスに乗り遅れるな
」とばかりに腰だめで始めた
という印象がある。

（生協ニュース教職員版第四
一号より抜粋転載）

第八回松軒車△△報生口

一月一七日一七時半

慶応高校地学教室

報告事項

一、一〇月二三〜二四日慶応

高校日吉祭で地下壕展開催

二、同二五日港北区民会議委

員の地下壕見学会一〇名参

加

三、同二六日下田小学校の史

跡巡りで蟹ヶ谷通信隊を見

学一〇名参加

四、同二七日慶応大学日吉担

当の小谷津理事と鮫島会長、

寺田事務局長が会談。

「慶応としては、もっと大

きな問題を抱えていて、地

下壕のことまではとても検

討する時間がない。趣旨は

よくわかる。理事が地下壕

を見学するのも容易ではな

い。慶応生協ニュースの地

下壕の記事は興味深く、読

後保存している」というこ

とであった。

五、一月四日市役所国際室

課長・係長に面会。「戦争

展」に対する横浜市の後援

を依頼した。

六、同九日横浜市教育委員会

に「戦争展」に対する後援

申込書を提出した。

七、同二六日港北区民会議A

分科会で「地域の歴史、文

化を知り、地域に愛着が持

てる街づくりが大切である」

との共通理解が得られた。

八、同二二日慶応普通部歴史

研究会の地下壕見学会予定

九、同二四日野麦オープンス

クルルの地下壕見学会予定

一〇、同二五日平和のための

戦争展実行委員会予定

議事

会報二六号について

*一九九四年一月二二日発送

戦争展について

*会員以外の賛同人呼びかけ

の発送

*開催中の当番について

*会報発送の時ピラを同封す

る

*二月上旬実行委員会名で葉

書を発送する

第九回松軒車△△報生口

一月一六日一七時半

日吉地区センター

報告

一、一月一八日横浜市教育

委員会より後援を承諾する

との通知があった

二、同二二日慶応普通部歴史

研究会の地下壕見学会一五

名余参加

三、同二四日野麦オープンス

クルルの地下壕見学会二〇

余名参加

四、同二五日戦争展実行委員

会

五、同二六日慶応生協学生委

員会の地下壕見学会二五名

余参加

六、同二七日水交会（元海軍

軍人の会）の地下壕見学会

二〇余名参加

七、一月九日横浜市より後

援を承認すると通知があっ

た

八、同二〇日川崎高校先生・

生徒の地下壕見学会一五名

余参加

九、同二二日「第二回日平和

のための戦争展」プレイベ

ントで旧陸軍登戸研究所見

学会三〇名参加

一〇、同二八日地下壕のパネ

ル用写真撮影予定

「第二回平和の

ための戦争展」

第五回実行委員会

一月二五日一八時

日吉地区センター

議事あらまし

*大日方、小島、和田、足立

の各氏に講演を依頼する

*横浜市、同教育委員会に後

お知らせ

★日吉台地下壕見学会

日時：一月二三日(日)

午後一時集合

集合場所：東急東横線

日吉駅改札口

参加費：五〇〇円(資料代)

ご案内：慶応高 寺田貞治

先生

持物：長靴、懐中電燈

(水浸しの箇所あり、

暗闇)

プログラム

藤山記念館にてレクチャー

地下壕見学

藤山記念館にてまとめの会

注意：地下壕見学に際しては

指示に従ってください

問い合わせ先：亀岡 敦子

〇四五〇五六一〇二七五八

★第二回平和のための戦争展

日程：二月九日(水)

一三日(日)

場所：大倉山記念館

東急東横線大倉山下車

徒歩七分

展示：期間中、於ギャラリー

講演：一二日(土)

一三〇一六時

松代大本営 大日方悦夫氏

登戸研究所 渡辺 賢二氏

日吉台地下壕 寺田貞治氏

戦争体験者の話：一二日(日)

一〇〇一二時半

小島 隆男氏

(中国大陸で強制連行に関

わった元軍人)

足立 長太郎氏

(海軍警備隊で横須賀基地

から日吉にきた元軍人)

和田 一夫氏

(登戸研究所に勤めていた

人)

シンポジウム：若者たちの調

査研究報告と討論

一三日 一三〇一六時

斎藤一晴、岡上そう、

足立英宣、鶴殿有正、

中島芳樹等

一昨年の川崎市平和館につづ

き、会場を横浜市に移しての

戦争展です。お誘い合せの上、

是非お出かけください。

援を依頼する

「第二回平和の

ための戦争展」

第六回実行委員会

一二月一六日一八時

日吉地区センター

議事あらし

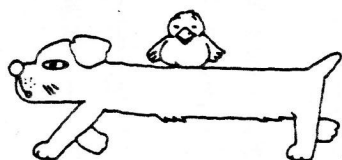
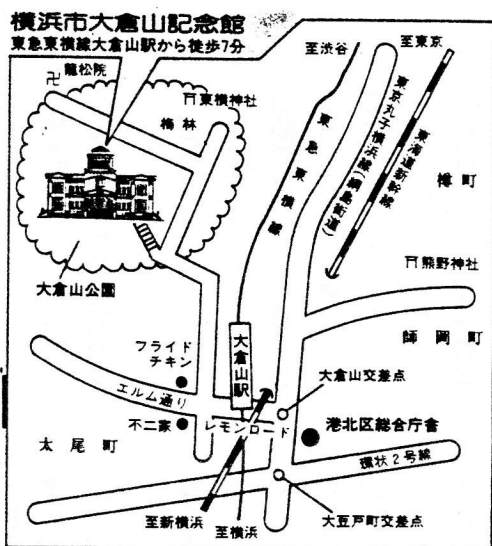
*日程 二月九日(水)

一三日(日)(八日は搬入)

詳しくは、お知らせ欄参照

*ポスター、ビラの配布

*展示品のリストアップ



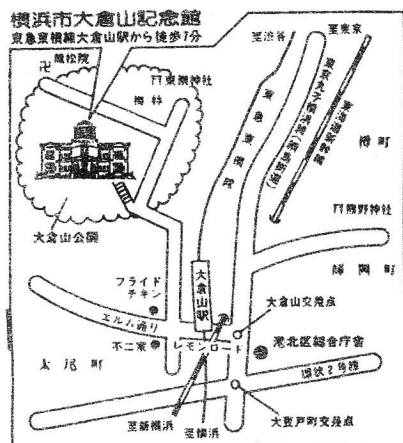


日 時

2月 9日(水)
午前10時から
2月13日(日)
午後5時まで

場 所

横浜市大倉山記念館



主催：平和のための戦争展
実行委員会

後援：横浜市

後援：横浜市教育委員会

実施団体：

★日吉台地下壕保存の会

★川崎市中原平和教育学級
記録編集委員会

★川崎市中原平和人権尊重
学級企画委員会

連絡先：

★寺田貞治(8045-562-1282)

★渡辺賢二(80462-34-4203)

平和のための戦争展 「私の街から戦争が見える」

連合艦隊司令部・大本営情報部等の日吉台地下壕
謀略秘密基地登戸研究所から戦争の実態に迫る

実施内容

●2月9日(水)～2月13日(日)

<展示>日吉台地下壕と登戸
研究所を中心に戦争の実態
をパネルなどで展示

★1階・ギャラリー

●2月12日(土)

<ビデオ上映>

日吉台地下壕、登戸研究所
松代大本営、戦ふ少国民など

★午前10時～12時半

★3階・第2集会室

<講演>

日吉台地下壕：寺田貞治氏

登戸研究所：渡辺賢二氏

松代大本営：大日方悦夫氏

★午後1時～4時

★2階・ホール

●2月13日(日)

<戦争体験者の話>

中国大陸で強制連行に携わった元軍人の話

海軍警備隊で機銃基地から日吉にきた元軍人の話

登戸研究所にかかわった人の話

★午前10時～12時半

★1階・第10集会室

<シンポジウム>

若者達の調査研究報告と討論

★午後1時～4時

★1階・第10集会室